

## 第34回景況調査結果

令和3年1月

大曲商工会議所中小企業相談所

### 1. 目的

大曲商工会議所地域内の商工業者の景況を把握し公表することにより、商工業者の事業推進に寄与するため実施した。

### 2. 景況判断指数（Diffusion Index 値）とは

景況判断指数はD I 値と表示され、求め方は、増加や好転と回答した事業所の割合から減少や悪化と回答した事業所の割合を差し引いた値で、プラスの時は好景気（景気拡大期）、マイナスの時は不景気（景気減速期）と判断される。

（計算例）

好転5社 変わらず3社 悪化2社 のD I 値は30ポイント  
D I 値＝好転の割合（5社÷10社＝50％）－悪化の割合（2社÷10社＝20％）  
D I 値＝50％－20％＝30（ポイント）

### 3. 調査対象期間

#### ●前期の実績

前期（令和2年10月1日～令和2年12月31日）についての実績を前年同期と比較（令和1年10月1日～令和1年12月31日）

#### ●今期の見通し

今期（令和3年1月1日～令和3年3月31日）についての見通しを前年同期と比較（令和2年1月1日～令和2年3月31日）

### 4. 回収状況

業種	対象事業所数	有効回答事業所数（回収率）
建設業	32	24（75％）
製造業	22	20（91％）
卸売業	6	3（50％）
小売業	80	54（68％）
サービス業	60	39（65％）
合計	200	140（70％）

調査結果

( )内は前回調査1月調査結果のDI値

①全業種

(単位: ポイント)

期間	景況	売上	在庫	利益	資金繰り	雇用
前期の実績 (前回調査)	△47.9 (△58.0)	△48.6 (△59.2)	△12.5 (△17.8)	△54.0 (△59.2)	△35.0 (△39.7)	5.9 (3.6)
今期の見通し (前回調査)	△46.4 (△54.5)	△46.4 (△60.6)	△5.7 (△13.7)	△51.8 (△61.4)	△33.3 (△44.6)	3.0 (1.4)

業種別

業種	期間	景況	売上	在庫	利益	資金繰り	雇用
建設業	前期の実績 (前回調査)	△20.8 (△36.4)	△29.2 (△27.3)	—	△33.3 (△33.3)	△25.0 (△19.0)	33.8 (23.8)
	今期の見通し (前回調査)	△20.8 (△27.3)	△33.3 (△45.5)	—	△33.3 (△45.0)	△8.3 (△21.1)	25.0 (30.0)
製造業	前期の実績 (前回調査)	△65.0 (△72.2)	△60.0 (△77.8)	△31.6 (△50.0)	△60.0 (△72.2)	△45.0 (△61.1)	△10.0 (△27.8)
	今期の見通し (前回調査)	△45.0 (△88.9)	△45.0 (△83.3)	△31.6 (△43.8)	△60.0 (△83.3)	△50.0 (△77.8)	△10.0 (△38.9)
卸売業	前期の実績 (前回調査)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	33.3 (66.3)
	今期の見通し (前回調査)	0.0 (0.0)	△33.3 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	33.3 (33.3)
小売業	前期の実績 (前回調査)	△50.0 (△69.0)	△50.0 (△72.4)	△6.0 (△9.3)	△55.6 (△65.5)	△32.1 (△39.7)	7.7 (△1.8)
	今期の見通し (前回調査)	△51.9 (△55.2)	△46.3 (△62.1)	4.2 (△5.6)	△50.9 (△63.2)	△30.8 (△43.1)	4.0 (△5.4)
サービス業	前期の実績 (前回調査)	△56.4 (△52.4)	△56.4 (△53.7)	—	△65.8 (△61.9)	△43.2 (△43.9)	△8.1 (9.5)
	今期の見通し (前回調査)	△59.0 (△57.1)	△56.4 (△61.0)	—	△64.1 (△61.9)	△47.2 (△46.3)	△8.1 (11.9)

### (3) 自由表記

#### 【建設業】

- ・大雪で除雪が大変である。コロナの影響がどうなるのか。  
(総合建設業)
- ・不安材料が多く、先行きが不透明である。  
(建設業)
- ・コロナの影響で大きく売上が減少した。新事業に取り組む予定である。  
(建設業)

#### 【小売業】

- ・コロナが落ち着かないと、今後の見通しは全く不明で不安である。  
(一般小売)
- ・11月・12月は家飲み需要でワイン・日本酒の個人向け売上は増加した。一方、業務市場に卸しているビールは厳しさが続いている。  
の納入が非常に少ない。  
(酒類小売)
- ・秋田県内でも感染者が増加した場合でも売上を確保する方法を模索中である。  
(衣料小売)
- ・イベント中止や延期が多く、客数減につながった。入学式・入社式開催が不透明であり。今後も楽観視できない厳しい状況を感じる。  
(衣料小売)
- ・大雪で客足が伸びていません。  
(食品小売業)

#### 【サービス業】

- ・コロナ感染拡大により人の移動が制限されており、旅行客・ビジネス客が動かず、売上の見通しが立てられません。  
(宿泊業)
- ・コロナ次第だが不安しかない。  
(飲食店)

#### 【製造業】

- ・コロナ禍の影響が今後長引くようだと、業況は悪化する。  
(製造業)
- ・先の受注が少なくとても心配です。  
(製造業)

#### (4) 考 察

全国比較：日本商工会議所 LOBO 調査

県内比較：秋田県県内経済動向調査

参考比較：大曲商工会議所新型コロナウイルス事業影響調査

#### 建設業

前回調査と比べると前期実績・今期見通しは雇用以外の全ての項目が前回調査と同様にマイナスの結果となった。しかし、マイナスの数値自体は改善されている。

全国調査では 1 月に入り災害復旧を含む公共工事が下支えしているものの、宿泊施設などの新設・改修工事や民間設備投資など民間工事の低迷が押し下げ、ほぼ横ばいである。

県内経済動向調査によると公共投資が 1 2 月は公共投資が 2 か月連続で前年同月を上回ったとある。

当所調査では売上 D I の前期実績△20.8、今期見通し△20.8 と数値は前回よりは回復傾向にあるが、依然として厳しい。ウイルス感染拡大の長期化・大雪により景況感は再び悪化する可能性がある。

#### 製造業

前回調査と比べると前期実績・今期見通しの全ての項目が引き続き厳しいマイナスであるが、数値は改善されている。

全国調査では 1 月に入り内食需要が堅調な飲食料品関連や中国・米国向けの生産が増加している自動車産業が下支えしているほか、テレワークの普及による需要が伸びているデジタル機器向けや 5G 向けの半導体製造装置関連の売上が増加し、改善とある。

県内経済動向調査によると木材・木製品などで落ち込みが続いているものの、電気機械等に好調な動きがみられ、全体としてはやや強含みの動きとなっているとある。

当所調査では改善傾向はみられるものの、回復にはしばらく時間がかかりそうである。

#### 卸売業

前回調査と比べると前回同様に景況 D I 値の今期見通し 0 である。しかし前回同様に食品関連卸売業の業績は改善されておらず、完全な回復にはまだ時間がかかりそうである。

## 小売業

前回調査と比べると前期実績・今期見通しともに若干の改善はみられるものの低調である。

全国調査では1月に入り飲食料品や日用品を中心に巣ごもり需要は堅調なもの、11都道府県における緊急事態宣言再発例を背景に客足が減少し、初売りでの売上が伸び悩んだほか、高価格帯の衣料品の需要低迷などが押し下げ原因となり悪化とある。

県内経済動向調査では12月は売上高が前年同月比3.8%増と堅調に推移している。

当所調査では、前回調査よりは改善しているものの依然厳しい状況である。

## サービス業

前期実績・今期見通しともに厳しい状況が続いている。

全国調査では1月に入りGO TOキャンペーン一時停止によるキャンセルが相次いだ宿泊業のほか、11都道府県での緊急事態宣言再発例に伴い、宴会などの会食を控える動きが広がった飲食業の売上悪化が全体を押し下げ、悪化とある。

県内経済動向調査では12月は新型コロナウイルス感染症の影響から、旅館・ホテル、運輸は落ち込みがみられているとある。

当所調査でも、秋田県に緊急事態宣言行事は発令されていないが、行事の規模縮小や飲食を伴うイベントの見送りなどが続いており、外出を自粛している消費者が一定いる。早期に新型コロナウイルスの影響が収束しなければ、より深刻な状況になると考えられる。

・全業種の景況は、前回調査と同様に新型コロナウイルスの影響が続いており、好調な業種はない。小売業・サービス業・製造業の落ち込みは依然として激しい。卸売業・建設業も先行きは依然として不透明である。新型コロナウイルスによる落ち込みはまだしばらく続くと思われる。